

「医療・福祉の地」発信

岡山で関西地区同友会合同懇談会

西日本の18経済同友会のメンバーが一堂に集う「第108回関西地区経済同友会合同懇談会」が9日、「安心安全な社会の構築に向けて」医療集積の地 岡山から過去・現在・将来を見る」をテーマに岡山市内で開かれた。多くの先人を輩出した岡山の医療・福祉分野の取り組みを発信するとともに、記念講演を通し日本が今後直面する医療の課題について考えた。(16、17面に特集)

500人参加 直面する課題考える

中部、近畿、中四国、の中島基善代表幹事が九州から約500人が「国民が豊かで安心で参加。岡山経済同友会」きる社会を目指すに



岡山の医療・福祉の取り組みなどを紹介した関西地区経済同友会合同懇談会

は、医療と福祉が欠かせない。先人の志をいかに未来へつなげていかか、考えていきたい」とあいさつした。

岡山における医療・福祉の歴史をVTRで紹介。日本初の西洋内科医学書「西説内科撰要」を翻訳した旧津山藩医の宇田川玄隨を源流とする津山洋学が、日本の近代医学の礎となるとともに、旧足守藩(岡山市)出身の蘭方医で蘭学塾「適塾」を開いた緒方洪庵ら多くの人材を輩出したことを説明した。

この後、岡山大学大学院歯薬学総合研究科教授の公文裕巳氏、倉敷中央病院理事長の大

事長の伊藤元重氏が、医療財政の問題や、産業としての医療の発展性など日本の医療の課題を解説した。

終了後、石井正弘岡山県知事や高谷茂男岡山市長も参加し懇親パーティーを開催。参加者は岡山産の肉や野菜、瀬戸内の魚介を使った料理、フラメンコのアトラクションを楽しみながら、各地の経済状況などについて情報交換し親交を深めた。

懇談会は2日間の日程で、最終日の10日は大原美術館(倉敷市中央)や大島アトプロジェクト「精錬所(岡山市・大島)などを見学する。

関西地区合懇は西日本各地の経済同友会が持ち回りで実施。毎回、地域の特徴を生かしたテーマを設定している。岡山での開催は2001年以来9年ぶりに。来年は島根県で開催される。(佐藤貴宏)

記念講演は東京大学大学院経済学研究科教授で総合研究開発機構理